

1 議長挨拶

2 経過報告

3月8日 第41回連携会議

3 2013年度役員体制の確認 ～ 別紙1

4 2012年度の反省と2013年度の具体的取り組みについて ～ 別紙2

5 各グループ活動計画について ～ 別紙3

※別紙3の活動原案についてグループ討議のうえ全体確認。

6 「平成26年度 石狩市教育予算要望書」に向けた具体的作業について ～ 別紙4

7 実践交流

8 連絡事項

(1) 会議日程等の連絡方法について

①連携会議に関する連絡・資料提出等は原則として電子メールを利用します。そのため、各人が自席のPCからメールを利用できるような環境整備をしてください。

方法1：学校メールアドレスを利用する場合は、自席の事務用PCから学校宛メールを見ることが出来るよう設定する。

※導入方法は <http://irenkei.sub.jp/nikkan/nikkan82.pdf> を参照ください。

方法2：yahoo や google などのウェブサイトでフリーメールのメールアドレスを取得する。

設定方法が分からない場合は、事務局までご連絡ください。

②以上の様な方法で連携会議からの連絡を受けるアドレスを事務局まで報告してください。

※会議案内や議案は原則として学校アドレス宛てに送信します。

③連携会議のメールアドレスは、colore3216@gmail.com です。送信はこのアドレスをお願いします。

(2) ホームページの活用について

①会議案内や会議資料については連携会議ホームページに掲載するので、いつでも確認することができます。ホームページアドレスは <http://irenkei.sub.jp> です。

②ホームページの中の「会員のページ」に入るのにはパスワードが必要です。IDは irenkei、パスワードは*****です。

③ホームページには掲示板も設置しています。掲示板のパスワードは johrtvv です。

(3) スカイプの導入について

現在有志においてスカイプの導入実験を行っています。簡易な連絡についてはEメールよりはるかに即時性が高く便利なおうえ、ヘッドセットを使えば複数による同時無料通話が可能です。連携会議として出来るだけ普及させたいと考えますので、是非導入をご検討ください。

※導入方法は 会員のページに掲載してあります。

＜別紙1＞ ‘13年度連携会議役員体制

議長	三 上 正 一	石狩中
事務局長	坂 地 和 哉	樽川中
事務局次長※	常 陸 敏 男	花川中
事務局員（研究）	加 藤 裕 之	花川南中
事務局員（調査研修）	外 崎 かおり	厚田小
事務局員（予算要望）	岡 崎 敏 秀	浜益中

※事務局次長については一昨年度まで欠員だったが、市内の事務職員の人数も増えたので設置することとしたい。（規約上は加配校の事務職員があたることとなっている）

※上記の他石狩市公立小中学校事務職員協議会三役（会長・事務局長・事務局次長）をもって役員会を構成する。

＜別紙2＞2012年度の反省と2013年度の具体的取り組みについて

1. 2012年度のとりくみ反省について

2012年度のとりくみについては、第41回連携会議において「2012年度活動の反省意見集約について」提案し、各校から意見をいただいた。

2. 各校よりだされた意見と事務局見解

(1) 各校の意見

事務局や各グループの依頼による調査の負担具合はどうか。	<input type="checkbox"/> かなり負担であった。 <input type="checkbox"/> やや負担、あるいは内容によっては負担だった <input type="checkbox"/> それほど負担ではなかった（1）
具体的に、どのような調査が負担でしたか。（できれば理由も）	
2012年のとりくみで、成果を感じられた事項は何でしたか。（できれば理由も）	・特に突出した成果があったという感じではないが、全体的に意識が高まってきていると思います。
2012年のとりくみで、あまり成果を感じられなかった事項は何ですか。（できれば理由も）	
来年度、更に力を入れるべき事項や新しくとりくむべき事項はありますか。（できれば理由も）	・「提言」は問題提起と改善のための指針で、学校事務の実務を推進するための共通理解の場である。ということであれば「提言」で何が問題で何が前進するための障害なのかを全員で検討し、前へすすめていく必要がある。15の提言をいただき、その中で実務として実施できることの検討も今後は必要。 ・新しくはないですが、新備品台帳の完成を期待します。
来年度、廃止または縮小すべきとりくみはありますか。（できれば理由も）	・上記のことから、調査を縮小し「提言」実施へ移行した方が良い。
その他、一年間の活動で気づいた点などありましたら、自由に記入してください。	

(2) 事務局見解

貴重なご意見ありがとうございました。今年度は、事務局も大きく様変わりしなかなかみなさんのご期待に応えられないかもしれませんが、貴重な意見として参考にさせていただきたいと思っております。

3. 2013年度の具体的とりくみ

(1) 学校財政と学校事務の状況調査

①決算予算調査及び学校徴収金調査については継続して行う。また、可能な限り各学校における提案方法や提案内容についても資料化を検討する。

②学校徴収金調査については、学校財政全体との関係に注目し、公費負担増額と保護者負担軽減につながる調査とし、予算要望委資料にも反映されるものとするよう検討する。

③学校事務運営計画における「二本立て運営計画」の状況の交流をはじめとして、学校事務労働の現状を明らかにするとりくみを行う。

※決算予算調査については、数字の結果だけでなく、提案方法や提案内容に踏み込んで各校の状況を分析します。また、調査した結果を各学校のとりくみに活用できるような資料化を目指します。学校徴収金調査については、校内とりまとめの状況や、申し合わせ事項の有無などもあわせて調査します。

(2) 調査活動の分析にもとづく提言

これまでと同様のとりくみ手順で提言に向けた活動をすすめる。ただし、既に提言を行った事項についても、制度や状況の変化がないか点検し、必要に応じて提言内容の更新を行う。
※提言内容については、日常実践のうえでの課題に基づくものを中心に、各校の意見を収集しながら決定します。

(3) 予算要望について

石教振事務部会の委託により、予算要望資料作成を行う。資料内容の検討は予算要望グループ会議の議論を経て、連携事務局として具体的作業を提起する。

※基本的には、全道・石狩事務職員協議会の基本方針である子どもの教育権保障の観点でとりくみます。また昨年度の反省を踏まえ、予算要望回答を分析し、実効ある予算要望書にするための検討を行います。

(4) 実践交流について

領域実践交流シートに加え、幅広く領域実践の交流を行う。また、市事協の委託により研究部と一体的に石教研二次集会及び石事協研究会レポート作成にとりくむ。

(5) その他

①市教委との折衝の在り方について市事協と協議し方向性を定める。

②予算公開実験（第30回連携会議で提案済）をすすめる。

<別紙3> 各グループの活動計画について

<別紙4> 「平成26年度 石狩市教育予算要望書」に向けた具体的作業について

1. 2012年度の取り組み状況と反省について～第41回連携会議議案を参照してください

2. 2013年度のとりくみについて

2013年度の基本方針と具体的要望内容については、予算要望グループで原案を作成し次回連携会議で決定する。

3. スケジュール

- | | |
|----------------------|----------------|
| (1) 予算要望グループ会議（原案審議） | ○月○日 |
| (2) 基本方針と具体的作業の確認 | 6月14日 第43回連携会議 |
| (2) 各学校の資料提出 | 夏休み空けを別途とする |
| (3) 提出資料の確認 | 9月27日 第47回連携会議 |

2013年度 調査研修グループ活動計画

1 活動方針

- (1) 業務の効率・迅速・正確・簡素化を図るため、学校事務の実態調査を行い、改善方法について検討・提案する。
- (2) 研究課題の解決や研鑽を深めるため、視察研修を企画・推進する。

2 活動計画

(1) 学校事務の改善について

- ① 事務職員が関わっている業務について、調査・資料化をする。
- ② 備品台帳（市内統一版）の活用をむけ、教育委員会との調整を行い、「備品台帳の手引き」作成にむけて検討を図る。
- ③ 学校事務労働の実態調査を実施し、分析・公表するなどして、各学校における実践改善に努める。
- ④ 各種「事務の手引き」の作成に向けて検討を図る。
- ⑤ 上記作業等については、協議会、連携会議事務局と十分に連携を図る事とする。

(2) 視察研修等について

- ① 他支部交流、出前講座については、会員アンケートを実施後、提案する。
- ② 実施後、報告を行い会員に研修成果の還元を努める。

2013年度 予算要望グループ 活動計画

1 所属メンバー

岡崎（浜益中），寺下（浜益小），森（南線小），常陸（花川中），鈴木（花川中）
中川（生振小），小林（聚富小中），三浦（花川南小），青木（樽川中）

2 活動方針

- （1）子どもの学習権保障の観点で学校予算の現状を調査・分析する。
- （2）予算要望委員会へ提出する資料の編集業務のため、各種企画立案を行う。

3 活動計画

（1）学校予算の調査・分析について

- ①学校徴収金や学校財政などについて必要に応じて調査交流をし、各学校における実践改善に努める。
- ②各会員が更に交流が必要と思われる事項などについては、内容精査のうえ、連携事務局に提案を行う。

（2）予算要望について

- ①予算要望の具体的計画について企画立案し、連携会議で決定する。
- ②過去3年実施した「学校財政に関する調査」は、内容を十分検討するなどして、今年度も実施の方向ですすめる。

2013年度 研究グループ活動計画（案）

1, 所属メンバー・・・加藤（花川南中）、品川（花川南小）、三上（石狩中）、品田（南線小）
長原（緑苑台小）、杉原（望来小）

2, 今年度の研究課題

子どもの学習権を保障する創造的学校事務の展開

～ 「学校間連携」のとりくみをとおして ～

3, 活動計画

(1) 「領域としての学校事務」を、より認知・定着させるとりくみ。

- ①財政財務活動・教育情報活動について、各会員の日常実践を積極的に交流するとともに、「領域実践交流シート」の更なる充実を図る。
- ②二本立て運営計画、保護者向け事務便り・児童生徒保護者アンケートについては、引き続き、学習・交流を行う。
- ③全道事務研究大会を始めとした各種研究会や他支部交流の参加体制の確立を図る。
- ④市独自の夏季・冬季研修会を開催し、会員の実践推進の場とするとともに、他市町村などと交流を深める。
- ⑤とりくみ内容などは、協議会、連携事務局と十分に連携を図ることとする。

(2) 各種レポート作成などについて

- ①全道事務研究大会、石教研二次集会、管内研などの発表レポートについては、研究部が主体となって作成し、会員に十分周知する。

(3) その他